

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名：ヘルパーステーション ながひさ

サービス種類：☐グループホーム ・ ☐小規模多機能型居宅介護

☐地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

☐地域密着型通所介護 ・ ☐認知症対応型通所介護

■定期巡回・随時対応型訪問介護看護

日 時： 令和6年3月25日（月曜日）

場 所： 和かち逢う家

出席者：7名

利用者代表	0人	知見者・地域代表	1人
利用者家族	0人	大田市職員	1人
医療関係者	0人	連携訪問看護	2人
事業所職員（職名：管理者・サービス責任者）			2人

欠席者 1人

報告事項：

利用者の状況

①入所者、登録者、利用者の人数

月	利用者数
10月	38名
11月	38名
12月	42名
1月	37名
2月	39名
3月	39名

②要介護度

【介護度別】

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
要介護 1	6 名	7 名	9 名	9 名	8 名	9 名
要介護 2	13 名	14 名	15 名	8 名	10 名	9 名
要介護 3	7 名	6 名	6 名	7 名	8 名	8 名
要介護 4	7 名	8 名	8 名	9 名	9 名	9 名
要介護 5	5 名	3 名	4 名	4 名	4 名	4 名
計	38 名	38 名	42 名	37 名	39 名	39 名

③男女比率

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
男性	10 名	10 名	11 名	6 名	7 名	7 名
女性	28 名	28 名	31 名	31 名	32 名	32 名
計	38 名	38 名	42 名	37 名	39 名	39 名

④年齢

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
60 代	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
70 代	3 名	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名
80 代	9 名	9 名	12 名	11 名	12 名	11 名
90 代	25 名	26 名	26 名	22 名	23 名	23 名
100 代	1 名	1 名	2 名	2 名	2 名	3 名
計	38 名	38 名	42 名	37 名	39 名	39 名

⑤地域（住所）別利用

令和6年3月現在、和かち逢う家入居者のみ利用されている。

地域名	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大田	4	6	6	5	5	5
水上	0	0	1	1	1	1
富山	1	1	1	1	0	0
川合	1	1	2	2	2	2
長久	14	14	13	11	12	12
温泉津	3	3	3	3	3	3
五十猛	2	2	2	2	2	2
大森	1	1	1	1	1	1
仁摩	4	4	4	3	3	4
鳥井	1	0	0	0	0	0
祖式	1	1	1	0	0	0
大代	1	1	2	2	3	3
久手	2	3	3	3	3	2
三瓶	0	0	0	0	0	0
福島県	1	1	1	1	1	1
久利	1	0	1	1	1	1
波根	1	0	0	0	0	0
朝山	0	0	1	1	1	1
山口	0	0	0	0	1	1
計	38	38	42	37	39	39

利用者の中には大田市外の方もおられ、住所変更し利用されている。(美郷町・川本町・江津市)

議 題：

1 活動状況報告

- ・現在、39名定期巡回・随時対応型訪問介護看護を利用されている。
(新規10月：2名, 11月：2名, 12月：4名, 1月：0名, 2月：2名, 3月：1名)

- ・新規利用は10月～3月では11名。サービス終了者や死亡終了者は10月～3月は12名あり。月平均38.8名。
- ・前回と同様に病院退院者でADLの低下がみられる方は新規で定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用となっている。

【提供実績】3/24時点

月	定期巡回	随時訪問
10月	6007回	129回
11月	5808回	114回
12月	6377回	126回
1月	5823回	101回
2月	5257回	48回
3月	6480回	255回

2 意見、要望等

「事業所から」

- ・定期訪問については、多職種（訪問看護・訪問リハ）で関り声掛けや自立を促している。そのため状態が安定し自分でできる事が増えてきている方は訪問回数を削減している。
- ・月一回の状況報告や訪問看護師のアセスメントを基にカンファレンスを開催し内容や時間変更の見直しを行なっている。
- ・サービス付き高齢者住宅の週一回のサロン参加や食堂での食事等で他者との交流や離床につなげている。
- ・退院後はADLや認知症等の状況を見るため定期巡回・随時対応型訪問介護看護を利用される方が多く、頻回な定期訪問を行なっているが状態が安定した場合には訪問回数を減らしている方もおられる。

「知見者・地域代表から」

- ・現在面会が自由にできない状態が続いているが、ご利用者家族との連携はどのように取っているか。スタッフが足りない場合など、職員の負担も大きく、地域のボランティアの協力を得るのも一つの方法ではないか。長久のイキイキ会にPTの■■■■さんが参加されていたことがあるが、そういった場でお願いしてみてはどうか。DS利用も一つの方法ではあると思うが、ご利用者も同じ人の顔ばかりしか見る事がなく、そうした地域資源の活用もよいと感じる。

「訪問看護から」

- ・コロナも落ち着いて来たとは言え、感染に気を遣うあまりなかなか制限も緩まない状況である。県央保健所の方からもインフルエンザと同等の扱いにな

る方向との話もあることから、面会制限もある程度は緩むのではないか。

「医療関係者から」

不参加

「大田市役所から」

特になし

3 今後について

- ・ 今後も多職種で連携し、声掛けや自立支援を促し個々にあった訪問計画を立案する。
- ・ サ高住の週1回のサロンへの声掛けや手作りのおやつ等楽しみの場を提供し安心して過ごせるよう支援をしていく。
- ・ 自己評価での指導項目について、どのように地域の方に関わっていただくか事業所内で検討する。

4 その他

- ・ 自己評価について

別紙参照

外部評価コメント欄について、

「訪問看護」

26 について

情報を得るだけではなく、ケアマネへの情報提供やカルテ開示、他施設への移動の際もきちんと情報の発信も行なっているので、情報収集のみでなく、アウトプットの記入もしっかり入れてよいと感じる。

「知見者・地域代表」

15 について

施設でのユニットケアでは24時間シートを作成し、施設に入居後も一人一人の力量に合わせた自分のペースを崩さない配慮がされている。なかなか勉強が難しければインターネットから情報を収集してもよいと思う。

24 について

担当者会議にはご利用者が参加されているか。参加が難しい場合もあると思うができる限り参加を促し、ご本人の意向を確認する。

31 について

職員がいないからを理由にせず、積極的に地域の催しに参加する。

「大田市役所」

まずは避難訓練を行なう際に地域住民（はじめはご家族や民生委員）に参加してもらうのはどうでしょう。一時避難の際は地域住民に見守りをして貰ったり、断水などの場合、和かちには貯水槽があれば地域の方に還元したり、非常食の提供など日頃からのつながりを持つことが大切だと感じる。

次回 令和 6 年 9 月 24 日（火）15:30～開催予定